

## 《資 料》

## 沖縄の民事陪審(1)

——記録から見た庶民の力——

齋 藤 哲 (訳)

(代表執筆者・陪審裁判を考える会)\*

---

原告 ツルコ及びドナルド・ロバーズ )  
 対 ) 民事 第1-62号  
 被告 チョウヘイ・トミシロ及び )  
 極東建設サービス株式会社 )

---

\* チョウヘイ・トミシロは仮名である。

法廷は、沖縄県那覇市において、1964年7月7日午前9時に開廷。

出廷者： ラッセル・L・ステイブンス： 裁判長  
 チャールズ・P・ハイグッド： 原告代理人  
 ツネヨシ・オオシロ： 原告代理人  
 ツルコ・ロバーズ： 原告  
 ドナルド・ロバーズ： 原告  
 ハワード・B・マクレラン： 被告・極東建設サービス株式会

---

\* これは本土復帰前の沖縄県において実施された民事陪審裁判の記録である。原文は英語であるが、被告個人を仮名にした以外、そのまま翻訳した。翻訳者は、齋藤のほか、滝田清暉（特定侵害訴訟代理人・弁理士）、荒川歩（武蔵野美術大学）、飯考行（専修大学）、西村健（弁護士）、新倉修（弁護士・青山学院大学）、四宮啓（弁護士・國學院大學）、黒澤亜紀（カリフォルニア大学サンタクルズ校）、黒沢香（元大学教授）である。

社代理人  
ロベルタ・F・ラストルファ： 法廷書記官  
ジェームス・L・スミス： 速記官

署名 \_\_\_\_\_  
ラッセル・L・ステイーブンス  
裁判長

裁判長： 皆さん、ここはとても寒いです。まず初めに休憩を取りましょう。  
ヒガさんが窓を開けてくれるでしょう——それで少しは良いかも知れません。  
残念ながら、私たちに空調する方法はありません。

他に何かをする前に、今朝呼び出された陪審員候補者の出席を取りたい  
と思います。(出席が取られた。)

今朝ここに集まっていたいた目的は、原告であるツルコ・ロバーズ及  
びドナルド・ロバーズの、被告であるチョウヘイ・トミシロ及び極東建設  
サービス株式会社に対する、事件の陪審を選任することにあります。本件  
は民事事件です。刑事事件ではありません。民事訴訟と刑事訴訟の間には  
何点かの違いがありますので、適切な時期に、私たちはあなたがたにいく  
つかの基本的な相違点についてお伝えします。読書などの知識において、  
あなたがたはどちらかといえば民事訴訟よりも刑事訴訟に通じていると想  
像します。私たちは短期の訴訟を見込んでいます。本件は3日か4日以上  
かかるべきではないと思います。しかしながら、それは単なる予測です。  
これらがどれくらいかかるのか、予め知る術はありません。

私は、書記官に陪審席を満たすように依頼し、そして次にいくつか質問  
をして、陪審員を審査するつもりです。陪審が選任された後は、残りのあ  
なたがたは家に帰ることも仕事に戻ることも自由です。書記官が今、陪審  
席を満たすでしょう、どうぞ。

書記官： ヒラリオ・E・バロガさん、ラルフ・H・リーさん、アルフォンソ・  
C・トレスさん、ルース・A・ソーカップさん、トーマス・C・ブラック

モアさん、コマツ・タナカさん、ゲンスケ・ナカザさん、ファルナンド・B・ガレラさん、ユキハル・ミヤギさん、ペギイ・L・ドーソンさん、ジョセフ・V・ライスさん、アーチエ・ガートレルさん。

裁判長： 席にお着きの紳士淑女の皆さん、あなたがたに立ち上がっていただき、そして今朝呼ばれた他の方々も立ち上がって、あなたがたが尋ねられるであろう質問に関し、あなたがたに宣誓して頂きます。(陪審員候補が立つ。)

裁判長： どうぞ右手を挙げて下さい。皆さんのそれぞれが、法廷に提出された理由に係る訴訟の陪審員として奉仕する、あなたの資格に関する、あなたになされるかも知れない質問に対して、正直に答えることを、心から誓って下さい。神があなたがたを助けますように。(肯定的な反応。)

陪審席の皆さん、どうか、質問に耳を傾け、それらに答えて下さい。候補が陪審席から免除された場合に、代わりになる他の皆さんも、それらを聞いてください。

皆さん、本件は原告ロバーズさんとその幼い子供によって申し立てられた、彼らが被ったと主張する損害に基づいて起こされた民事事件です。本件の被告はチョウヘイ・トミシロ氏と極東建設サービス株式会社です。トミシロ氏に対しては、既に欠席裁判に入っています。彼は訴状に答弁するために出席することをしませんでした。被告・極東建設サービス株式会社は法廷代理人であるハワード・マクレラン氏を介して、今朝出廷しました。法廷代理人であるヘイグッド氏およびオオシロ氏によって代理される、事故の被害者である未亡人とその幼い息子である原告は出廷しています。事故は合衆国軍の何人かの労働者と監督官が、沖縄のシマブク所在の県道5号線の部分で、破損した水道本管を修理することを余儀なくされた、1959年11月30日の1時頃に発生しました。

訴状の申立てによれば、被告のトミシロ氏は不注意で犠牲者と衝突し、死に至らしめる負傷を負わせた車両を運転していました。

本件で審理される争点には限度があります。それが、私が通常の訴訟より短い訴訟と予測した理由です。私は、第1番目の陪審員候補者に、最初

に質問したいと思います。また、専断的な忌避の性質について混乱があると思いますので、私はここで、これについて説明したいと思います。皆さんもご存知のとおり、理由があるとき、あるいは両者が合意するとき、候補者を除外することができます。また、私たちは専断的忌避とは何かを知っています。本件のような民事事件では、法は双方に3回の専断的忌避を与えます。これは、全く理由なしに与えられる、陪審員候補者に対する拒絶です。言い換えれば、双方とも、何らの理由も弁解もなしに、裁判所に対して3人の陪審員候補者の免除を申し立てる権利を有しています。

この手続きは、本件を審理する陪審員の選任手続きに、双方がより充分に参加することを可能にします。仮にあなたがそのような免除された1人になったとしても、それが何か、あなた個人や陪審員として奉仕する資格が反映された結果であるとは考えないで下さい。陪審員選任手続き中に、代理人が、まれにではなく、彼らが免除したある人物を呼び戻したいと思うことがあること、しかしそのようなことはもちろんできないことはよく知られています。だから、仮にあなたが何らの理由も告げられずに免除されたとしても、そのことに神経質にならないで下さい。陪審員の選任手続きは双方に対して完全に公平なものです。あなたは、呼ばれたときに出席し、奉仕するために準備していることによって、充分にあなたの義務を果たしています。

さて、私はいくつかの質問をしたいと思います。

(裁判長による質問)

Q： バロガさん、あなたは本件について、今までに聞いたことはありますか？

A： 私はこの件を新聞で読みました。

Q： あなたは、読んだことから、すでに何か結論を形成しましたか？

A： いいえ。

Q： 本件の実体について、あなたの心の中で、何か決定した事はありますか？

A： いいえ。

Q： あなたは原告を知っていますか？

A： 私は、彼らの事務所の近くで働いたことがあります。私は、彼らの友人を知っています。

Q： あなたが言及しているのは、極東建設サービス社のことですか？

A： はい。

Q： あなたは、その友人関係または知識が、あなたの公正かつ誠実な行動を妨げると思いますか？

A： 極東建設サービス社に、少し有利になるかも知れません。

裁判長： バロガさん、この状況で、あなたは免除されると思います。帰る前に、私たちがあなたの出席を記録し、あなたへの支払いを手配できるように、書記官室に寄って行って下さい。

(裁判長による質問)

書記官： シンジュウ・クニヨシさん。

裁判長： クニヨシさん、あなたは原告のどちらかを知っていますか？

A： いいえ、私は聞いた事ありません。

Q： あなたは、事件について今まで何も聞いていないのですか？

A： はい、聞いておりません。

Q： あなたは本件の被告を知っていますか？

A： いいえ、知りません。

Q： あなたは、原告代理人のオオシロさんか、ヘイグッドさんを知っていますか？

A： いいえ、知りません。

Q： あなたは被告代理人のマクレランさんを知っていますか？

A： いいえ、知りません。

Q： クニヨシさん、あなたは、事件自体についての説明は聞かれました。あなたは、損害賠償を求めるこのタイプの訴訟に関して、何らかの感情、または何かのバイアス、あるいは何らかの偏見をお持ちですか？

A： いいえ、持っておりません。

Q： あなたは、陪審員として誠実に行動できない、何らかの理由を知って

いますか？

A： はい、知っています。

Q： 理由は何ですか？ 多分あなたは、はっきりと理解していないかも知れません。あなたは、本件において、あなたが陪審員として完全に公平かつ誠実に行動できると感じていますか？ あなたは何れかの側に何らかの感情を持っていませんか？ 何れかの側を好むとか、あなたが本件において完全には公平になれない何らかの理由を持っていませんか？

A： 私には、どのような訴訟が本件に含まれるのか、正確には分かりません。

Q： しかしあなたは、この時まで何の意見も持っていませんでした。

A： はい、その通りです。

Q： あなたは21才以上です、そうですね？

A： はい。

Q： あなたは、召喚状を受け取る前3ヶ月以上前から琉球諸島に住んでいましたね？

A： はい。

Q： クニヨシさん、あなたの職業は何ですか？

A： 琉球銀行に勤めています。

Q： あなたは、今までに有罪判決を受けたことはありますか？

A： いいえ、ありません。

Q： あなたは読み書きできますね？

A： はい。

Q： あなたは、陪審員として公平に行動することを妨げるような、何か精神的または肉体的な問題を持っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは合衆国民政局の役員ですか、それとも従業員ですか？

A： いいえ、違います。

Q： 陪審員候補者に原告がしたい質問は、他に何かありますか？

ヘイグッド代理人： いいえ、質問はありません。

マクレラン代理人： 私も質問はありません。

裁判長： 結構です、クニヨシさんは正当な理由で通りました。

ヘイグッド代理人： 裁判長、ちょっと中断しても良いですか？

裁判長： リーさん、代理人に指摘されて関係を考慮しましたが、代理人の望むところ、そして裁判所の同意を得て、あなたは除外されました。あなたの仕事に戻れます。来ていただいて、ありがとうございます。次の人の名前を呼んでくれますか？

書記官： ヒルピノ・M・マラジャスさん。

(裁判長による質問)

Q： マラジャスさん、あなたは今までに本件について何か聞きましたか？

A： 私は、以前に聞いた事があります。

Q： あなたは事件に関して何か意見を形成しましたか？

A： いいえ、そういうことはありません。

Q： あなたは、原告のロバーズ夫人か、彼女の息子さんを知っていますか？

A： 個人的には知りません。

Q： あなたは、代理人のオオシロさんか、ヘイグッドさんを知っていますか？

A： はい、私は彼らを知っています。

Q： 彼らは、あなたの代理人を務めていますか？

A： いいえ。

Q： これらの2人の何れかに関するあなたの知識は、陪審員としてのあなたの行動を妨げますか？

A： 分かりません。

Q： 原告代理人に関するあなたの知識は、原告側に有利な先入観をもたらす原因となりますか？

A： そうですね、裁判長、本件は建設会社に対する事件です。私は請負業者に勤務しています——請負業者の方に傾くかもしれません。

Q： あなたは、本件で公平に行動できるとは感じていないと言われましたか？

A： 私は公平に行動できないかも知れませんが、裁判長。

Q： あなたは、被告の建設会社のために先入観を持つかも知れないと感じるのですか？

A： その通りです。

裁判長： 免除のための異議はありますか？

ヘイグッド代理人： 理由付きで免除してください。

マクレラン代理人： 異議ありません。

裁判長： 結構です。マラジャスさん、あなたは免除されました。

書記官： マサオ・サクモトさん。

(裁判長による質問)

Q： サクモトさん、あなたは今までに本件について聞いた事がありますか？

A： いいえ、ありません。

Q： 本件における原告のどちらかを知っていますか？

A： いいえ、知りません。

Q： あなたは、原告代理人のオオシロさんか、ヘイグッドさんの何れかを知っていますか？

A： 私は彼らを知っています。

Q： その知識は、陪審員としてのあなたの公平かつ誠実な行為を損ないますか？

A： いいえ。

Q： あなたは、被告、または彼らの何れかを知っていますか？

A： はい。

Q： あなたは、誰を知っていますか、チョウヘイ・トミシロ氏あるいは極東建設サービス社ですか？

A： いいえ。

Q： あなたは、被告代理人のマクレラン氏を知っているのですか？

A： そうです。

Q： 彼はあなたの代理人を務めますか？

A： いいえ。



Q： あなたのマクレラン代理人に関する知識は、陪審員としてのあなたの行動に影響しますか？

A： いいえ。

Q： あなたは、今まで陪審員になったことがありますか？

A： いいえ。

Q： あなたは、本件に関して何か意見を持っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは21才以上ですか？

A： はい。

Q： あなたは、召喚状を受け取る3ヶ月以上前から沖縄に住んでいますか？

A： はい。

Q： サクモトさん、あなたはどのような仕事をしていますか？

A： バンク・オブ・アメリカの那覇支店に勤務しています。

Q： あなたは今まで有罪判決を受けたことがありますか？

A： いいえ。

Q： あなたは、陪審としてのあなたの行動を妨げるような、何か精神的または肉体的な問題を持っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは、USCAR（琉球諸島米国民政府）の役員でも従業員でもありませんね？

A： 違います。

裁判長： 原告は、この陪審候補者に対して何か質問はありませんか？

ヘイグッド代理人： 質問はありません。

マクレラン代理人： 質問はありません。

裁判長： 結構です、サクモトさんを正当な理由により通しましょう。

(裁判長による質問)

Q： トレスさん、あなたは今までに本件について聞いた事がありますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは、原告、または彼らのどちらかを知っていますか？

A： いいえ。

Q： 原告の代理人である2人、つまりオオシロさん、あるいはヘイグッドさんを知っていますか？

A： いいえ。

Q： 被告のトミシロさん、あるいは極東建設サービス社のどちらかを知っていますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは、被告を代理するマクレラン氏を知っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは陪審をつとめたことがありますか？

A： いいえ。

Q： 何かこの事件について感じるがあるとか、あるいは事件についての意見がありますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは21才以上ですね？

A： はい、裁判長。

Q： 召還状を受け取る3ヶ月以上前から、沖縄に住んでいますか？

A： はい。

Q： あなたはどのような仕事をしていますか？

A： 供給サービス系統の、洗濯とドライクリーニングの管理人です。

Q： あなたは今まで有罪判決を受けたことがありますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは読んだり書いたりできますよね？

A： はい。

Q： 陪審員としてのあなたの行為を妨げるような、精神的または肉体的な何らかの問題を持っていますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは民政局の従業員、あるいは役員ですか？

A： いいえ、違います。

裁判長： 原告が、この候補に尋ねたい質問はありますか？

ヘイグッド代理人： 質問はありません。

マクレラン代理人： 何もありません。

裁判長： 結構です、トレスさんは正当な理由により通りました。

(裁判長による質問)

Q： ソーカップ夫人、あなたは今までに本件について聞いた事がありますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは、本件の原告のどちらかを知っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは、原告を代理するオオシロ氏、またはヘイグッド氏のどちらかを知っていますか？

A： 私は、仕事でヘイグッドさんとお会いしたことがあります。

Q： 彼があなたの代理人を務めること、または今までに務めたことはありますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： ヘイグッド氏に関するあなたの知識は、陪審員としてのあなたの行為を、少しでも妨げるようなものですか？

A： いいえ。

Q： あなたは、彼ら被告の何れかを知っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは、被告である極東建設サービス社の代理人であるマクレラン氏を知っていますか？

A： はい、裁判長。

Q： 彼はあなたの代理人を務めますか？

A： いいえ。

Q： マクレラン氏に関するあなたの知識は、陪審員としてのあなたの誠実な行為を妨げますか？

A： いいえ。

Q： あなたは、本件、またはこのような事件に関して、何らかの感情、または意見を持っていますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたが誠実かつ公平に行動できない何らかの理由を知っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは21才以上ですね？

A： はい、裁判長。

Q： あなたは、召喚状を受領する3ヶ月以上前から沖縄に住んでいましたか？

A： はい、裁判長

Q： あなたはどのような仕事をしていますか？

A： 第313航空師団のための、不動産幹部職です。

Q： 今までに、有罪判決を受けたことはありますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは、陪審員としてのあなたの行動を妨げるような、何らかの精神的または肉体的な問題を持っていますか？

A： いいえ。

Q： USCARの役員でも従業員でもありませんね？

A： いいえ、裁判長。

裁判長： 原告が尋ねたい質問はありますか？

ヘイグッド代理人： 質問はありません。

マクレラン代理人： 何もありません。

裁判長： 結構です、ソーカップさんは正当な理由により通りました。

(裁判長による質問)

Q： ブラックモアさん、あなたは今までに本件について聞いた事がありますか？

A： はい、裁判長。

Q： あなたは本件に関し、何らかの結論または意見を形成しましたか？

A : はい。ロバーズさんは、私の直接の監督下に働いていました。

Q : あなたは、あなたの知識が、あなたが誠実に行動することを妨げると感じていますか？

A : はい、感じています。

裁判長 : ヘイグッドさん、私はブラックモアさんを免除すべきだと思いますが。

ヘイグッド代理人 : 私には何も質問はありません。異議もありません。

裁判長 : 結構です、ブラックモアさん、私たちはあなたを免除します。ありがとうございました。

書記官 : メアリ・L・カーパさん

(裁判長による質問) :

Q : カーパ夫人、あなたは今までに本件について聞いた事がありますか？

A : いいえ、裁判長。

Q : あなたは本件の原告ロバーズ夫人、または息子さんのどちらかを知っていますか？

A : いいえ。

Q : あなたは原告のどちらかの代理人を知っていますか？

A : いいえ。

Q : あなたは、被告のトミシロ氏、または極東建設サービス社の何れかを知っていますか？

A : いいえ、裁判長。

Q : あなたは代理人のマクレラン氏を知っていますか？

A : いいえ。

Q : カーパさん、あなたは今までに陪審員を務めたことはありますか？

A : いいえ。

Q : あなたは、本件の様な、またはこの特定の形の裁判に関して、何らかの先入観または偏見を感じていますか？

A : いいえ。

Q : あなたは、あなたが完全に誠実に行動することができない、何らかの

理由を知っているか、お持ちですか？

A： いいえ。

Q： あなたは21才以上ですか？

A： はい。

Q： あなたは、召喚状を受け取る前3ヶ月以上、沖縄に住んでいますか？

A： はい。

Q： あなたは雇用されていますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは今までに刑事で有罪判決を受けたことはありますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは読み書きができますね？

A： はい。

Q： あなたは、陪審員として行動することを妨げるような、何らかの精神的または肉体的な問題を持っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたはUSCARの役員または従業員、もしくは米国民政局と何らかの関連を持っていますか？

A： いいえ、裁判長。

裁判長： 原告は何か質問はありませんか？

ヘイグッド代理人： 質問はありません、裁判長。

マクレラン代理人： 何也没有什么。

裁判長： 結構です。カーパさんは正当な理由にもとづく合格です。

(裁判長による質問)

Q： タナカ夫人、あなたは本件について聞いていますか？

A： はい、私は聞いた事があります。

Q： あなたは何か意見を形成しましたか？

A： いいえ。

Q： あなたは本件のどちらかの原告を知っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは原告代理人のどちらかを知っていますか？

A： 私はヘイグッドさんを知っております。

Q： あなたのヘイグッドさんに関する知識は、あなたが本件で誠実に行動することを妨げますか？

A： いいえ。

Q： あなたは本件被告のどちらかを知っていますか？

A： はい、極東建設社は知っています。

Q： あなたはそこで働いていますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： その関係は、会社が存在するという1つの知識ですか？

A： はい。

Q： その知識は陪審員としてのあなたの行為を妨げますか？

A： 私はそうなることを危惧します。

Q： あなたの知識はどの程度なのでしょう？

A： 極めて限られています。

Q： なぜそれが、あなたの誠実な行為を妨げるのでしょうか？ オーナーの誰かと親しいのですか？

A： いいえ。

Q： もしかしたら、あなたはその会社の株主ですか？

A： いいえ。

Q： できればタナカさん、私たちに説明してください、あなたは、極東建設サービス社の肩をもつ先入観を持っていると感じているのですか？

A： はい。

Q： それは友人ですか？

A： いいえ。

Q： あなたが公平に行動できないかも知れないと感じる根拠は何ですか？

A： 私が持っている情報からです。

Q： 私的な、個人的な情報ですか？

A： はい。

ヘイグッド代理人： 理由付きで免除します。

裁判長： 結構です、タナカさん、理由付きであなたを免除しましょう。

書記官： サブロウ・S・ナカムラさん。

(裁判長による質問)

Q： ナカムラさん、あなたは本件について何か知っていますか？

A： はい。

Q： 何を知っていますか？ 新聞からですか？

A： いいえ、私は死んだロバーズさんを知っていました。

Q： あなたはロバーズさんを知っていたのですか？

A： はい。

Q： あなたはどの程度ロバーズさんを知っていましたか？

A： 私は、私の建設期間、技術部門で彼と一緒に働いていました。

Q： あなたは彼と親しかったのですか？

A： はい、裁判長、私たちは友人同士でした。

Q： あなたは、ロバーズさんを知っていることが、本件においてあなたが公平に行動する事を妨げると感じているのですか？

A： はい、裁判長。

裁判長： この紳士について質問はありませんね？ 結構です、ナカムラさん、あなたを理由付きで免除します。

書記官： シャーリー・アン・ローズさん

(裁判長による質問)

Q： ローズ夫人、あなたは本件について何かご存じですか？

A： いいえ。

Q： あなたはこれまでに、それについて聞かれたことはありますか？

A： いいえ、これが初めてです。

Q： あなたは本件原告の何れかを知っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは原告代理人の何れかを知っていますか？

A： はい、私はヘイグッドさんを良く知っております。



Q： ヘイグッドさんはあなたを代理しますか？

A： いいえ。

Q： あなたは、ヘイグッドさんについての知識が、あなたの公平な行為を妨げる何らかの理由を知っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは本件被告の何れかを知っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたはマクレランさんを知っていますか？

A： はい、私はマクレランさんも良く知っております。

Q： その知識は、あなたの公平な行為を妨げますか？

A： いいえ。

Q： ローズさん、あなたは今までに陪審員を務めたことはありますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは、このタイプの裁判、またはこの裁判について、何か先入観または偏見をお持ちですか？

A： いいえ。

Q： あなたは、あなたが完全には公平になれないという何らかの理由を知っていますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは21才以上ですね？

A： はい。

Q： あなたは、召喚状を受け取る前、3ヶ月以上沖縄に住んでいましたか？

A： はい。

Q： あなたは雇われていますか？

A： はい。

Q： どこに勤めていますか？

A： 私は製造業者ビル・ラングレイさんの秘書です。

Q： 営利団体ですか？

A： そうです。

Q：あなたは刑事で有罪判決を受けたことはありますか？

A：いいえ。

Q：あなたは読み書きできますね？

A：はい。

Q：あなたは、あなたが陪審員として行動することを妨げる、何か精神的または肉体的な問題をお持ちですか？

A：いいえ。

Q：あなたは米国民政局の役員、または従業員もしくは関係者ですか？

A：いいえ。

裁判長：原告は何か質問がありますか？

ヘイグッド代理人：質問はありません。

マクレラン代理人：何もありません。

裁判長：結構です。ローズさんは正当な理由により合格です。

(裁判長による質問)

Q：ナカザさん、あなたは本件について聞いた事がありますか？

A：いいえ。

Q：あなたは原告の何れかを知っていますか？

A：いいえ。

Q：あなたは原告代理人の何れかを知っていますか？

A：いいえ。

Q：あなたは被告の何れかを知っていますか？

A：いいえ。

Q：あなたは被告代理人のマクレランさんをご存じですか？

A：いいえ。

Q：私は、マクレランさんが、被告・極東建設サービス社のみを代理していることを明確にしたいと思います。あなたは、このタイプの訴訟について、何らかの感情または先入観、もしくは偏見を持っていますか？

A：私は何も持っておりません。

Q：あなたは、あなたが完全には公平になれない、何らかの理由を知って

いますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは21才以上ですね？

A： はい。

Q： あなたは、召喚状を受け取る前、3ヶ月以上沖縄に住んでいましたか？

A： はい。

Q： あなたはどちらに雇用されていますか？

A： 琉球大学です。

Q： あなたはこれまでに有罪判決を受けたことがありますか？

A： いいえ。

Q： あなたは、あなたが陪審員として行動することを妨げる何らかの精神的または肉体的問題を持っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは米国民政局の役員、あるいは従業員ですか？

A： いいえ。

裁判長： 原告は何か質問がありますか？

ヘイグッド代理人： 質問はありません。

マクレラン代理人： はい、裁判長、1つか2つあります。ナカザさん、あなたは大学のどの学科に関係がありますか？

A： 英語学科です。

Q： あなたは講師、助教授、または教授ですか。

A： はい。

マクレラン代理人： 以上です。それ以上の質問はありません。

裁判長： 結構です、ナカザさんは正当な理由により合格しました。

(裁判長による質問)

Q： ガレラさん、あなたは本件に関し、何かご存じですか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは原告のどちらかを知っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは被告代理人のどちらかを知っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは被告代理人のマクレランさんを知っていますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは今までに陪審員になったことがありますか？

A： いいえ。

Q： あなたはこのタイプの訴訟に関して何か偏見や先入観を持っていますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは絶対的な公平を持って席に着けない理由を何も知らないのですか？

A： いいえ、知りません。

Q： あなたは21才以上ですか？

A： はい。

Q： あなたはこの召喚状を受け取る前、3ヶ月以上沖縄に住んでいましたか？

A： はい、裁判長。

Q： あなたはどこで働いていますか？

A： 那覇の空軍基地です。

Q： あなたは民政府の役員または従業員ではありませんね？

A： いいえ、違います。

Q： あなたは精神的または肉体的に何か問題がありますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： もちろん読み書きはできますね？

A： はい。

裁判長： 何か質問はありますか？

ヘイグッド代理人： 質問はありません。

マクレラン代理人： 質問はありません。

裁判長： ガレラさんは、正当な理由でパスしました。

(裁判所による質問)

Q： ミヤギさん、あなたは本件について今までに聞いた事がありますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは原告のどちらかを知っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは被告代理人のどちらかを知っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは被告のどちらかを知っていますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは、極東建設サービス社の代理人、マクレランさんを知っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは今までに陪審員になったことがありますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたはこのタイプの事件に関して、何か偏見や先入観を持っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたはこの特別な事件で絶対的に公平ではいられない、何らかの理由を知っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは21才以上ですね？

A： はい。

Q： あなたはこの召喚状を受け取る前、3ヶ月以上沖縄に住んでいましたか？

A： はい。

Q： どこに雇用されていますか？

A： ハーバービュー・クラブです。

Q： 今までに刑事事件で有罪になったことはありますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： 読み書きはできますね？

A： はい。

Q： あなたは精神的または肉体的な問題を何か持っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは民政府の役員または従業員ではありませんね？

A： いいえ、違います。

裁判長： 質問は？

ヘイグッド代理人： 質問はありません。

マクレラン代理人： 何もありません。

裁判長： ミヤギさんは正当な理由で通りました。

(裁判長による質問)

Q： ドーソン夫人、あなたは本件について何かご存じですか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは本件原告のどちらかを知っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは原告代理人のどちらかを知っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは本件被告人のどちらかを知っていますか？

A： 私はマクレランさんとお会いしたことがあります、私は彼を知りません。

Q： 彼があなたの代理をしたことは、まったくありませんか？

A： ありません、裁判長。

Q： あなたがマクレランさんと面識があるということが、本件においてあなたが公平に行動することの妨げになるということはありませんか？

A： いいえ。

Q： このタイプの裁判について、あなたは何らかのバイアスまたは偏見を、まったく持っていないですか？

A： はい、裁判長。

Q： あなたが本件について、完全には公平になれない理由がありますか？

A : いいえ。

Q : あなたは21才以上ですね？

A : はい。

Q : あなたは召喚状を受け取る前3ヶ月以上沖縄に住んでいましたか？

A : はい。

Q : あなたは雇用されていますか？

A : はい。

Q : どこで働いていますか？

A : モーニング・スター旅行社です。

Q : あなたは今までに、刑事で有罪判決を受けた事がありますか？

A : いいえ、裁判長。

Q : それで、読み書きはできますね？

A : はい。

Q : あなたは陪審員としての行為を妨げるような、精神的または肉体的な問題がありますか？

A : いいえ。

Q : あなたは民政府の役員または従業員ですか？

A : いいえ、裁判長。

裁判長 : 質問はありませんね？

ヘイグッド代理人 : 質問はありません。

マクレラン代理人 : 何もあります。

裁判長 : たいへん結構です。ドーソンさんは正当な理由で通りました。

(裁判長による質問)

Q : ライスさん、あなたは本件について何か知っていますか？

A : はい、裁判長。

Q : あなたは、本件について個人的な知識をお持ちですか？

A : 新聞で読んだだけですが、その後で噂も聞きました。

Q : 言い方を変えれば、ただの日常的な会話と読み物ですね？

A : その通りです。

- Q： 本件に関するこの知識は、事件についてあなたが公平に振る舞うことを妨げると思いますか？
- A： いいえ、裁判長。
- Q： あなたが読んだり話したりしたことから、あなたは何か意見や考えを形成しましたか？
- A： いいえ、裁判長。
- Q： あなたは原告のどちらかをご存じですか？
- A： 私は仕事を通して故人を知っていました。
- Q： あなたはどちらに雇用されていますか？
- A： 軍属です。
- Q： あなたは故人の友人でしたか？
- A： いいえ、裁判長。
- Q： あなたの知識は純粋に仕事を通して得られたものですか？
- A： その通りです。
- Q： あなたの故人についての知識は、本件におけるあなたの公平な行為を妨げるものですか？
- A： いいえ、裁判長。
- Q： あなたは原告を、原告として知らないのですね？
- A： はい、知りません。
- Q： あなたは原告代理人のどちらかを知っていますか？
- A： 私はマクレラン氏をよく知っており、ヘイグッドさんも多少知っています。
- Q： あなたは、そのどちらかに代理されたことはありますか？
- A： いいえ、裁判長。
- Q： 彼らの1人または両者との友人関係やあなたの知識は、本件においてあなたが公平に行動することの妨げになると思いますか？
- A： いいえ。
- Q： ライスさん、あなたは今までに陪審員になったことはありますか？
- A： いいえ、裁判長。



Q： このタイプの訴訟に関して、あなたは何らかのバイアスか偏見をお持ちですか？

A： いいえ。

Q： 本件において、あなたが絶対的な公平性をもって望めない何らかの理由を知っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは21才以上ですね？

A： はい、裁判長。

Q： あなたは召還状を受け取る前3ヶ月以上、沖縄に住んでいましたか？

A： はい。

Q： あなたは今までに刑事の有罪判決を受けたことがありますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは民政府の役員または従業員ですか？

A： 違います。

裁判長： 原告から質問は？

ヘイグッド代理人： 質問はありません。

マクレラン代理人： 何もしません。

裁判長： 結構です。ライスさんは正当な理由でパスしました。

(裁判長からの質問)

Q： ガートレルさん、あなたは本件について何かご存じですか？

A： いいえ。

Q： あなたは原告のどちらかを知っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは原告代理人の何れかを知っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは被告の何れかを知っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは被告・極東建設サービス社の代理人マクレランさんをご存じですか？

A： いいえ。

Q： あなたはこれまでに陪審員になったことはありますか？

A： いいえ。

Q： あなたは本件に含まれるこのタイプの申立てについて、何らかのバイアスまたは偏見をお持ちですか？

A： いいえ。

Q： あなたは、本件において、絶対的な公平を持って着席できない何らかの理由を知っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは21才以上ですか？

A： そうです。

Q： あなたは召喚状を受け取る時以前、3ヶ月以上沖縄に住んでいましたか？

A： はい。

Q： あなたはどこに雇用されていますか？

A： 国防省のためのジョイント・サービス・プロセッシング・センターです。

Q： あなたは今までに、刑事で有罪判決を受けたことがありますか？

A： いいえ。

Q： あなたは読み書きできますね？

A： はい。

Q： あなたは、陪審員としてのあなたの行動を妨げる、何か精神的または肉体的な問題を持っていますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは民政府の役員または従業員ですか？

A： いいえ、裁判長。

裁判長： 質問は？

ヘイグッド代理人： 質問はありません。

マクレラン代理人： ありません。

裁判長： 結構、ガートルェルさんは正当にパスしました。さて、これから専断

的忌避に入ります。皆さんは、つい今しがた私が話したと思いますが、もしあなたが代理人に免除されても、これはあなた個人のいかなるもの、あるいは、陪審としてのあなたの資質を反映したものではないということです。もし、たまたまあなたが免除された1人であったとしても、これは法律によって許容されているために代理人がとった行為であるということをご存じかもしれません。それは、誰か他の陪審員の方が良いかも知れないと彼に感じさせた、何かの要因に関する、彼個人の知識のためかも知れません。つまり、仮にあなたが免除されたとしても、それには何も反映されていないのです。

ヘイグッド代理人： 裁判長、専断的忌避に入る前に、私たちは補充陪審員を選ぶべきではありませんか？

裁判長： 私は、本件は短期で終わる事件だと思います。私としては、補充陪審員は控えたいと思います。

マクレラン代理人： 分かりました。補充陪審員を呼び出す必要はないと思います。

裁判長： 結構、今回は見送りましょう。本件が短期であることに加えて、既に呼び出されている陪審員候補から、私たちは陪審員を選ぶことができるように思います。

マクレラン代理人： 代理人と私が、お席によってもよろしいでしょうか？

裁判長： 結構です。

裁判長： 被告の最初の専断的忌避を行使して下さい。

マクレラン代理人： 私たちはクニヨシさんを忌避します。

裁判長： クニヨシさん、あなたは免除されました。出席して頂きありがとうございます。書記官は他の名前を呼んでくれますか？

書記官： ロメオ・エイ・ベニトさん。

(裁判長による質問)

Q： ベニトさん、あなたは本件について聞いたことがありますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは被告のどちらかを知っていますか？

A : いいえ。

Q : あなたは被告代理人のマクレランさんを知っていますか？

A : いいえ。

Q : あなたは原告のどちらかを知っていますか？

A : いいえ。

Q : あなたは原告代理人のどちらかを知っていますか？

A : いいえ、裁判長。

Q : あなたは今までに、陪審員になったことはありますか？

A : いいえ。

Q : あなたは、このタイプのものについて、ある意味何らかのバイアスマたは偏見を持っていますか？

A : いいえ。

Q : あなたは、絶対的公平性を持って着席できない、何らかの理由を知っていますか？

A : いいえ。

Q : あなたは21才以上ですか？

A : はい。

Q : あなたは召喚状を受領する前、3ヶ月以上沖縄に住んでいましたか？

A : はい。

Q : あなたは雇用されていますか？

A : はい。

Q : 誰に？

A : 琉球中央為替に。

Q : あなたは民政府の役員または従業員ではありませんね？

A : 違います。

Q : あなたは今までに、刑事で有罪判決を受けたことはありませんね？

A : ありません。

Q : 読み書きはできますね？

A : はい。

Q： あなたは、陪審員としてのあなたの行為を妨げるかもしれない、何らかの精神的または肉体的な問題を持っていますか？

A： いいえ。

裁判長： 原告から何か質問は？

ヘイグッド代理人： 質問はありません。

マクレラン代理人： 質問はありません。

裁判長： 結構です、ベニトさんは正当な理由で通りました。ヘイグッドさん、原告の最初の専断的忌避は？

ヘイグッド代理人： 私はライスさんを免除したいと思います。

裁判長： ライスさん、お越しいただいて、たいへんありがとうございました。どうかライスさん、交代して下さい。

書記官： ジェームス・H・フリーさん。

(裁判長による質問)

Q： フリーさん、あなたは本件について聞いたことがありますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは原告のどちらかを知っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは原告代理人のどちらかを知っていますか？

A： はい、知っています。

Q： 両方ですか？

A： はい、そうです。

Q： 彼らがあなたの代理人になったことはありますか？

A： いいえ。

Q： 原告代理人の知人であること、または、そのどちらかと友人関係にあることは、本件においてあなたが公平に振る舞うことの妨げになりますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： それはただの知人だと言うことですか、あるいは近い友人ですか？

A： ただの知人です。

Q： あなたは被告のどちらかを知っていますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは極東建設サービス社を代理するマクレランさんを知っていますか？

A： はい。

Q： 彼はあなたの代理をしますか？

A： はい、裁判長。

Q： 個人的に？

A： 実は、今まさに、ちょっとした土地の問題で。

ヘイグッド代理人： 理由付きでフリーさんを忌避します。

マクレラン代理人： 私はそれに反対しません。しかしながら、純粹に正しい記録のためですが、技術的には、フリーさんが含まれる土地取り引きを取り扱っていることは本当です。しかしながら、私は彼を直接代理しているわけではなく、私は相手方を代理しています。ある意味で、私はフリーさんを代理していると思いますが、私は彼を直接代理したと考えたことはありません。

裁判長： 私は、十分近い関係だと考えます。

マクレラン代理人： 私たちはフリーさんの忌避に異議ありません。

フリー氏： 私は、私が選任されることに関する限り、それはまったく意味がないと思います。

Q： あなたは、それがあなたの公平さに影響するとは信じられないのですか？

A： 信じられません。この取り引きは、相手側のみを通してなされています。

Q： これは単一の取り引きなのですか？

マクレラン代理人： そうです。

裁判長： これはあなたがフリーさんを代理した、最初で唯一の時ですか？

マクレラン代理人： これは私がフリーさんを代理した唯一の時です。私は、もう一度、他のもう1つの事案について助言したことがあります。しかし

ながら、その時には代理関係は含まれませんでした。もし相手方が懸念されるのであれば、引っ込めることも考えます。

ヘイグッド代理人： 裁判長の質問に対するフリーさんの回答から、私は、もしフリーさんがこだわりなく公平に着席してくれるなら、私の理由付き忌避を取り下げます。

裁判長： 私たちは、賞賛ではなく、多少の説明を記録しました。

マクレラン代理人： フリーさんは、アワセ地域にある、マンガンさんによって購入されたある商用ビルのオーナーです。私の事務所は取り引きを処理しており、取り引きの事務処理である限り、財産それ自身の移転と借地契約の譲渡の両方を含む、所有権の移転登録に関わっています。それが、私が代理する程度です。

裁判長： あなたは、もともとマンガンさんに抱えられているのですね？

マクレラン代理人： その通りです。

裁判長： 分かりました、この点に……。

ヘイグッド代理人： 私は異議を取り下げます。

Q： フリーさん、あなたは今までに陪審員になったことはありますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたはこのタイプの事案に何かバイアスや偏見を持っていますか？

A： いいえ。

Q： あなたは、本件の陪審員として絶対的な公平を持ってあなたが着席できない、何らかの理由を知っていますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは21才以上ですね？

A： はい。

Q： あなたは召喚状を受け取る前、3ヶ月以上沖縄に住んでいましたか？

A： はい。

Q： あなたはどこに雇用されていますか？

A： 私はマチナト地区にあるW・W・テイラーに勤めています。

Q： あなたは今までに刑事で有罪の判決を受けたことがありますか？

A： いいえ。

Q： 読み書きはできますね？

A： はい。

Q： 何か精神的または肉体的な問題はありますか？

A： いいえ、裁判長。

Q： あなたは民政府の役員または従業員ですか？

A： いいえ、裁判長。

裁判長： 何か質問は？

ヘイグッド代理人： 質問はありません。

マクレラン代理人： 質問はありません。

裁判長： フリーさんは正当な理由で通りました。さあ、被告人による第2回  
目の専断的忌避の準備ができました。

マクレラン代理人： 裁判長、私たちは2回目の専断的忌避を放棄します。

裁判長： 原告は？

ヘイグッド代理人： 原告も2回目の専断的忌避を放棄します。

裁判長： 大変結構、双方とも同じですので、第3回目の専断的忌避も放棄し  
ますか？

マクレラン代理人： はい、裁判長。

ヘイグッド代理人： その通りです。

裁判長： たいへん結構です。さあ、12人の陪審員が決まりました。今朝呼  
び出され、まだ席が決まっていない陪審員候補の方々は、ここに来ていた  
だいたことへの感謝と共に、ここで免除されます。私たちはそのことにた  
いへん感謝しますし、もちろん、この出頭に対して、あなたには支払われ  
る資格があり、後にあなたが書記官と接したとき、彼女はあなたに支払う  
ように取りはからうでしょう。来ていただき、ありがとうございました。

マクレラン代理人： 裁判長、これは休憩に丁度良いのではないのでしょうか？

裁判長： そうですね、先ず陪審に宣誓してもらいましょう。そしていくつか  
注意することがあります。

陪審員の皆さん、起立して右手を挙げ、陪審員として宣誓して下さい。



(陪審員は従った。)

裁判長： あなたがたの各人は、この法廷で、あなたがたが完全にこの訴訟を審理し、証拠に従い真の評決をすることを、心から誓って下さい。そして、神はあなたがたを助けるでしょう。(肯定的な返事。)

裁判長： トミシロさんは法廷にいますか？ (応答なし)

裁判長： 記録のため、私たちは今朝トミシロさんに、審理の通知を渡しました。何故なら、彼を含む唯一の問題は損害の問題であるからです。

陪審員の紳士淑女の皆さん、今朝の遅い時間または午後、私たちはあなたがたに、本件について、いくつか事前説明をします。代理人が、それらを審理する必然性から私たちを解放する、多くの事実を明記したので、あなたがたの関与はある特殊な争点に限られるでしょう。それから、もちろん代理人次第ですが、それらの特殊な争点に関する証拠および供述書が提出されるでしょう。私たちは、私が思い起こすように、3つの争点を持っており、後でこれらをあなたがたに提供しましょう。そして勿論、本件があなたがたに示された後に、私たちはあなたがたに、法自身に関する特別の説示を与えます。

審理に着手する前に、私たちは、代理人による冒頭陳述を経験すると思います、そして、ある冒頭説示もまた受けるでしょう。審理外るとき、もしそうしたければ、あなたがたは休息を取るために、ホールを横切って上訴法廷を使っても結構です。

ヒガさん、あちらの法廷に灰皿があるか確かめてもらえますか？ (廷吏が応じた。)

私たちは、陪審員が必要以上にホールをぶらぶらしないほうが良いと思います。たぶん何事も起こらないとは思いますが、それでも評判を落とすような立場にならないとは限りません。ですから、開廷中に休憩する場合には、可能な限り、ホールを横切った法廷に留まっていたほうが良いと思います。それは私たちの正規の上訴法廷です。そこには多くの部屋があり、あなたがたが寛げる椅子やテーブルもあります。洗面所はこの廊下と前の廊下にあります。この建物には1ヶ所にだけ水飲み場があり、それは

後ろの廊下にあります。私たちの休憩時間はほんの僅かです。

私はあなたがたに、この注意をしたいと思います。私たちが別れる前に、私はあなたがたに、あなたがたの義務として、あなたがたの間で、あるいは誰か他の人との間で、事件や裁判の実体に触れる、如何なる課題についても、意見を交わしたり交信したりしないように。また、あなたがたの評決のために、あなたがたに最終的に提示されるまでは、本件についての如何なる意見も形成しないように、忠告します。

すなわち、裁決するために事件があなたがたに回されて来るまで、あなたがた自身の判断を個人的に維持して下さい。もし必要だと感じたら、ノートしても結構です。もしノートしたら、それらは裁判所から提供された書類になり、裁判所から提供された包袋に入れられて、翌日まで安全に保存するために、各日の会議の終わりに、法廷の廷吏の方に提出されます。私たちは、時々、10分から15分休憩を取ったり、1回または2回、証人が呼ばれたときの方法によっては、半日休憩を取ったりするかも知れません。言い換えると、私たちは、毎日証人がここに着席したり、いつ呼ばれるのかと考えたりすることを好みません、そして勿論、夕方になれば、あなたがたは帰宅することを許され、次の日には戻ってきます。通常、私たちの裁判は、9時00分から約11時30分までと、1時30分から約4時30分迄です。それは、状況によって多少変わるかも知れません。

私たちはここで15分間休憩を取りましょう。代理人、よろしいですか？  
10時30分迄休憩しましょう。

(法廷は1964年7月7日午前10時15分に休憩に入った。)

続く (以下、獨協法学108号掲載予定)